

子どもと家庭を取り巻く現状について

本県における少子化や子育て環境の現状

出生数：7,762人（2022年）

※昭和60年：約1万7千人

※平成28年からは7年連続で1万人を割り込み、年々減少。

※厚労省「人口動態統計」

合計特殊出生率：1.47（2022年） → 2020年（1.48）から微減

※厚労省「人口動態統計」

生涯未婚率：男性26.53% / 女性16.64%（2020年）

（50歳時の未婚割合）

← 男性 23.61% / 女性 13.80%（2015年）

※国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2023」

平均初婚年齢：夫29.8歳 / 妻28.7歳（2022年）

← 夫30.0歳 / 妻28.7歳（2020年）

※厚生労働省「人口動態統計」

男性の育休取得率：31.0%（2022年）

※2019年（10.9%）を大きく上回っているが、女性（97.8%）とは依然として大きな取得率の差

※山口県「令和5年度働き方改革推進実態調査」

固定的役割分担意識：35.5%（2019年）

※「男は仕事、女は家庭」という考え方に関する意識

※山口県「男女共同参画に関する県民意識調査」（2019年）、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2019年）

子どもを取り巻く環境の変化：児童虐待相談対応件数688件（2022年）

不登校児童生徒数3,378人（2022年） 等

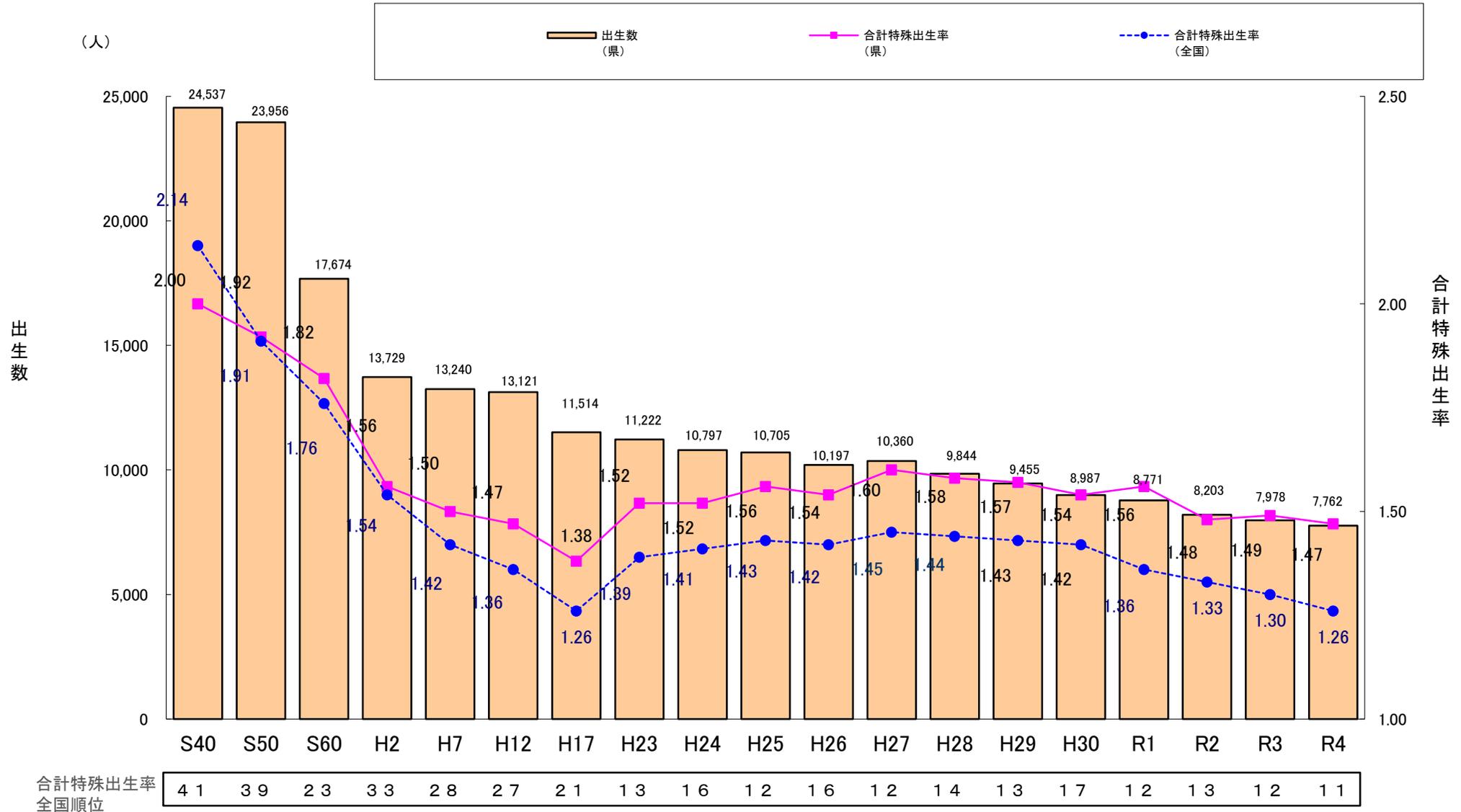
※文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」等

- 少子化・未婚化の急速な進行
- 男性の育児・家事参画の更なる推進
- 子どもを取り巻く問題の深刻化

山口県における出生数、合計特殊出生率の推移

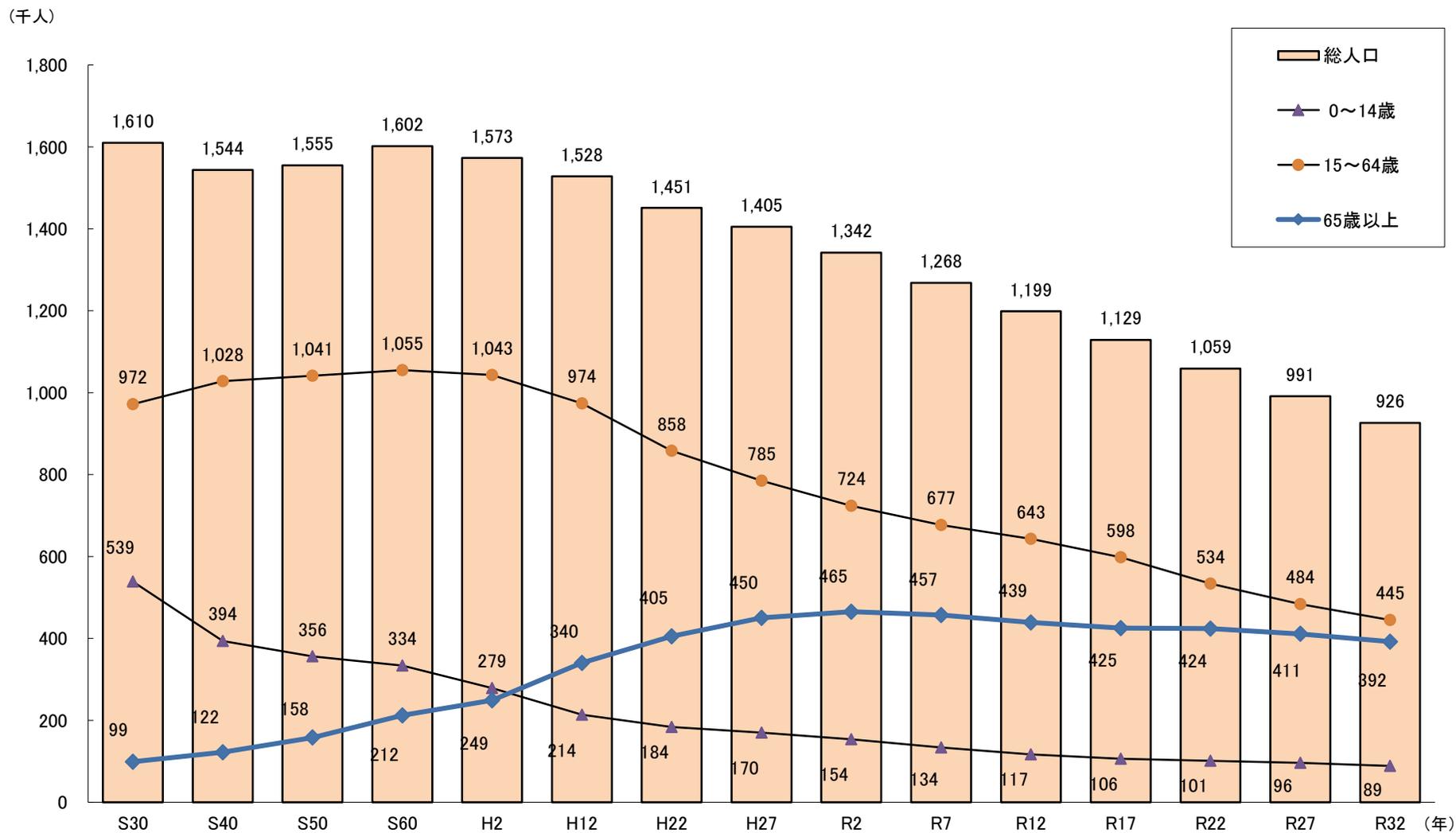
◆令和4年の出生数(年間推計)は7,762人で、前年比216人減少

◆合計特殊出生率(令和4年確定数)は1.47で前年比0.02ポイント下降



山口県における人口推移と将来推計

年少人口(14歳以下)は令和2年で高齢者人口の3分の1以下
 令和32年の年少人口は、高齢者人口の4分の1以下まで減少すると推計

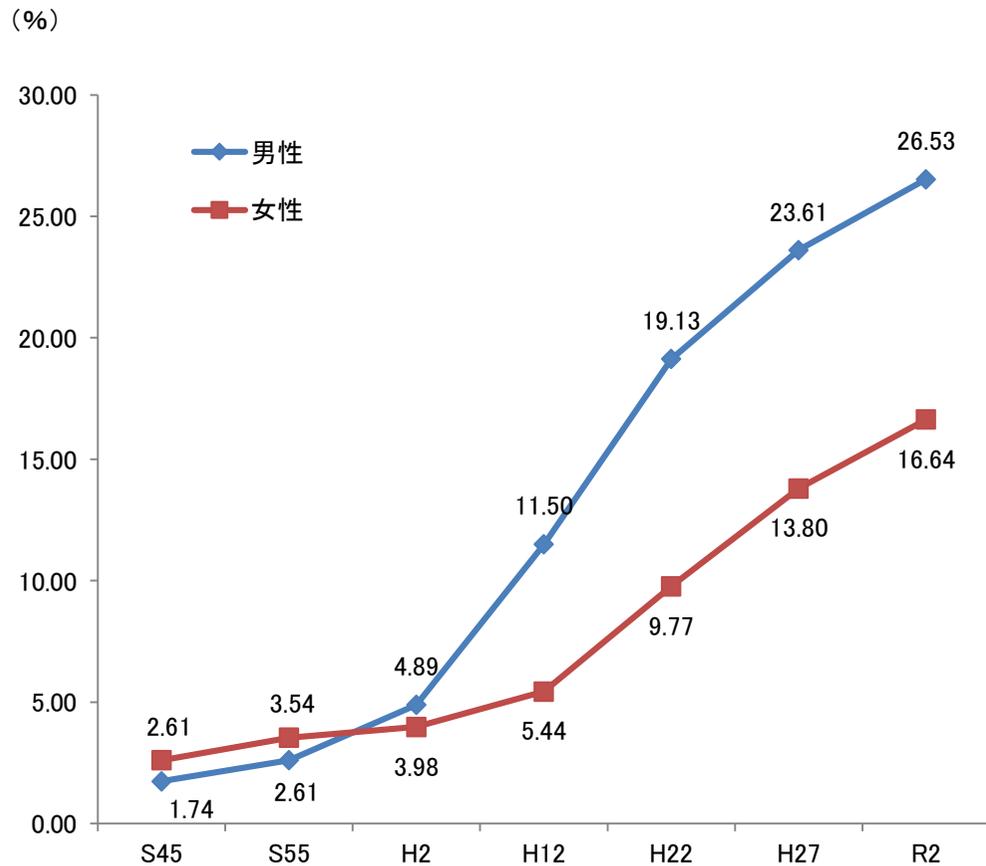


国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」(令和5年推計)

山口県における未婚化・晩婚化の状況

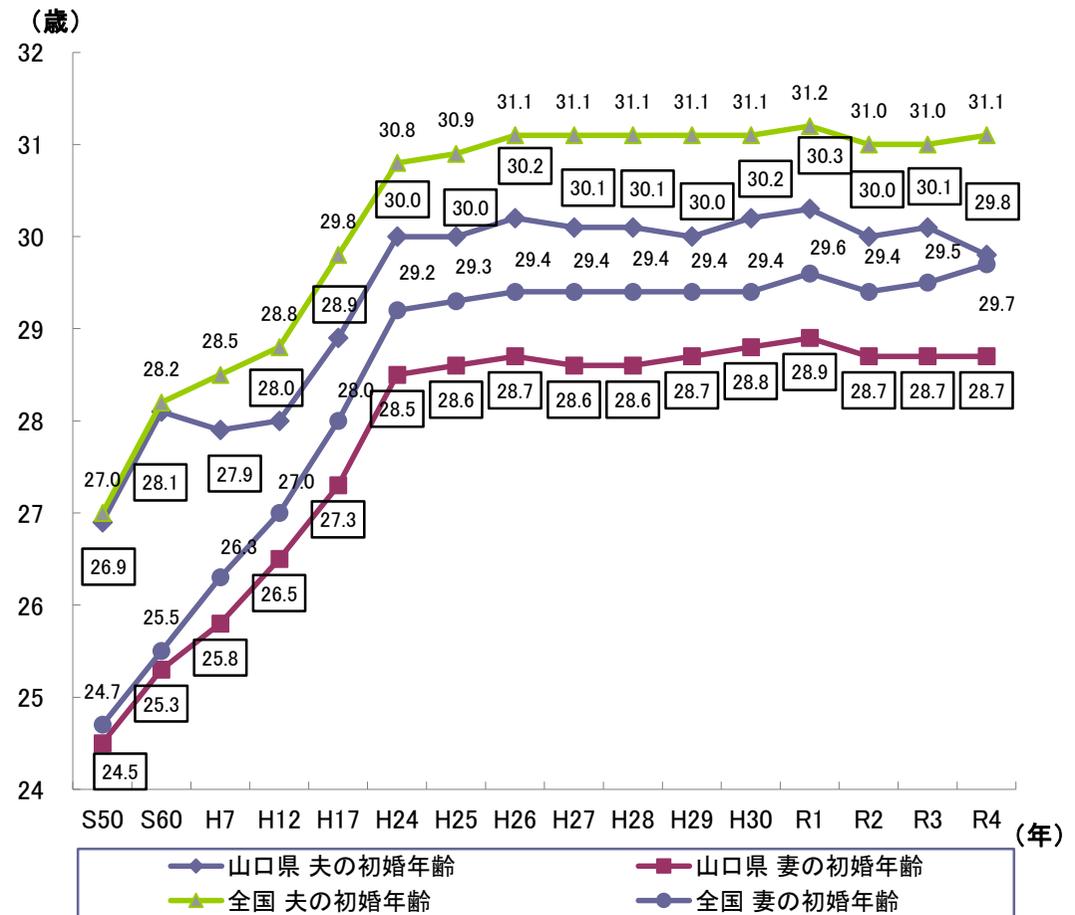
- ◆生涯未婚率は、令和2年で男性が約26%、女性が約14%と上昇
- ◆初婚年齢は、昭和50年と比較して男性が+3歳、女性が+4歳、近年は横ばい

○ 生涯未婚率の推移



国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2023」

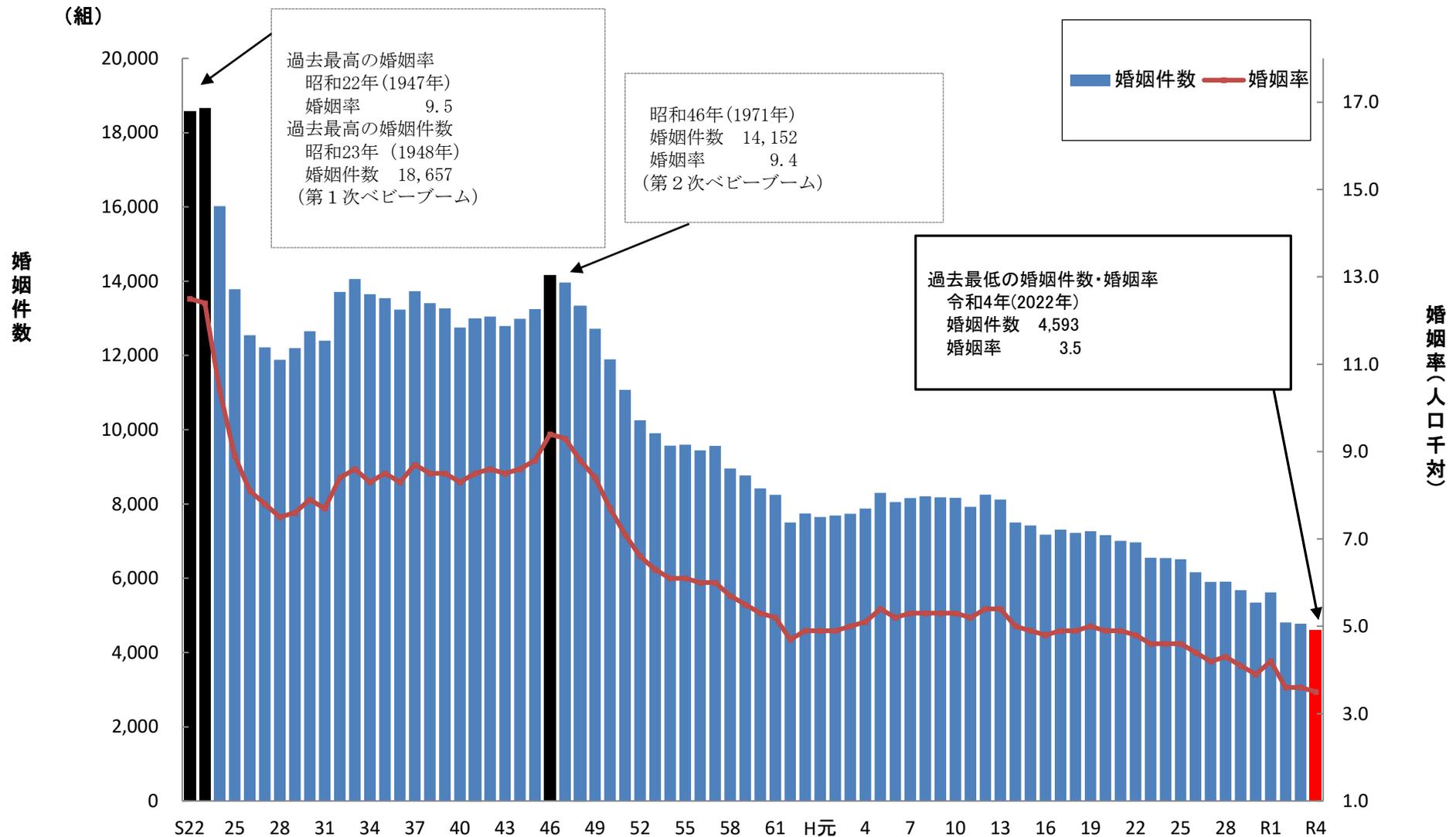
○ 初婚年齢の推移



厚生労働省「人口動態統計」

山口県における未婚化・晩婚化の状況

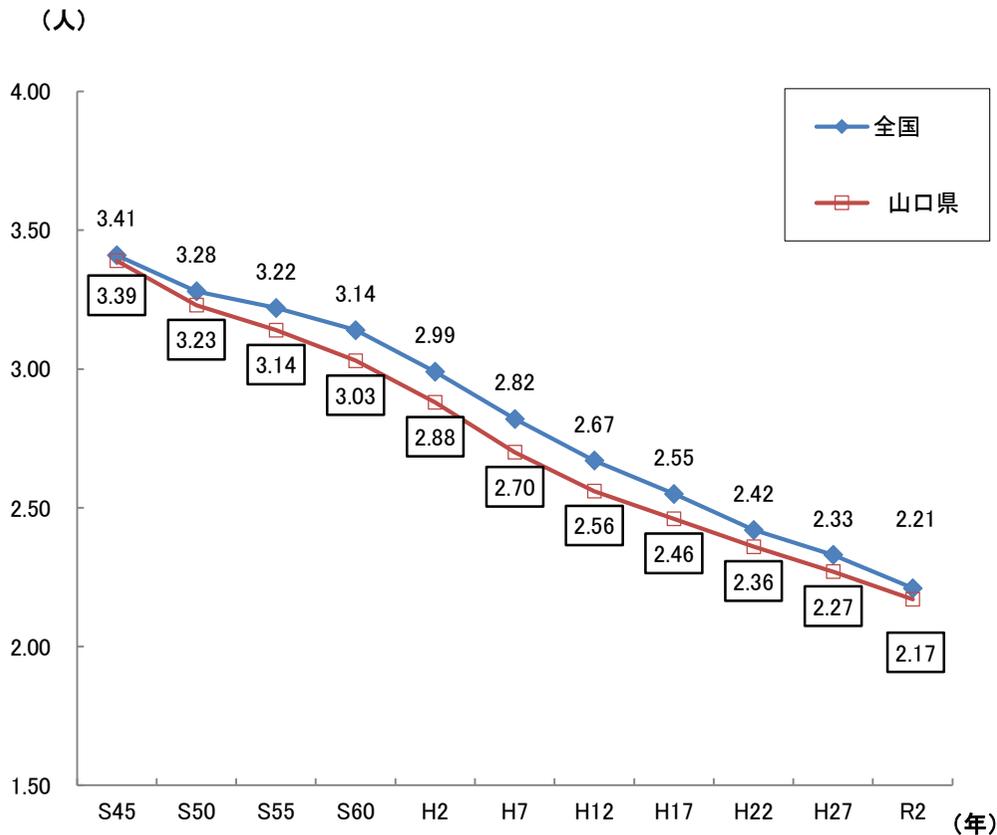
- ◆ 出生数の減少に直接的な影響を与える「婚姻件数」は、近年緩やかに減少
- ◆ 昭和46年の14,152件から約3分の1となっており、婚姻率も同様に減少していることから、未婚化が進行



山口県における家族形態の変化

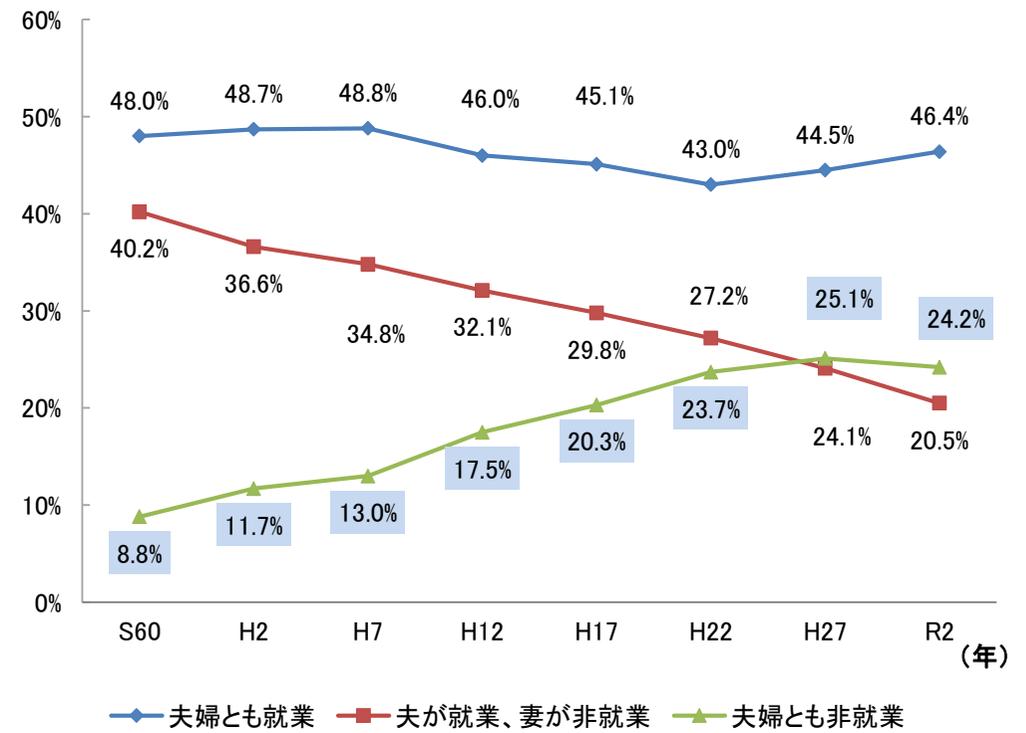
- ◆ 1世帯当たりの平均人数は減少を続けている。
- ◆ 共働き世帯は増加し、夫が就業・妻が非就業の世帯の割合が減少を続けている。

○ 1世帯当たりの平均人員の推移



総務省国勢調査(昭和40年は調査内容が異なるため比較不能)

○ 共働き世帯の割合

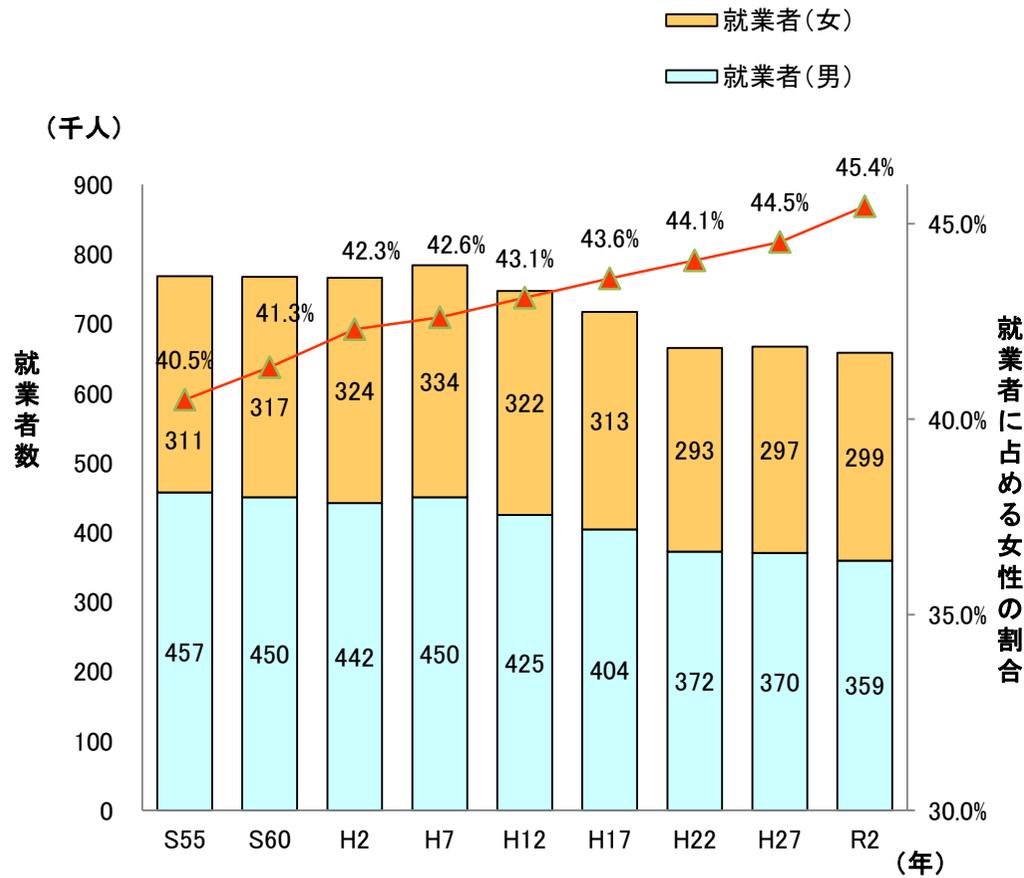


総務省国勢調査

山口県における女性の就業状況

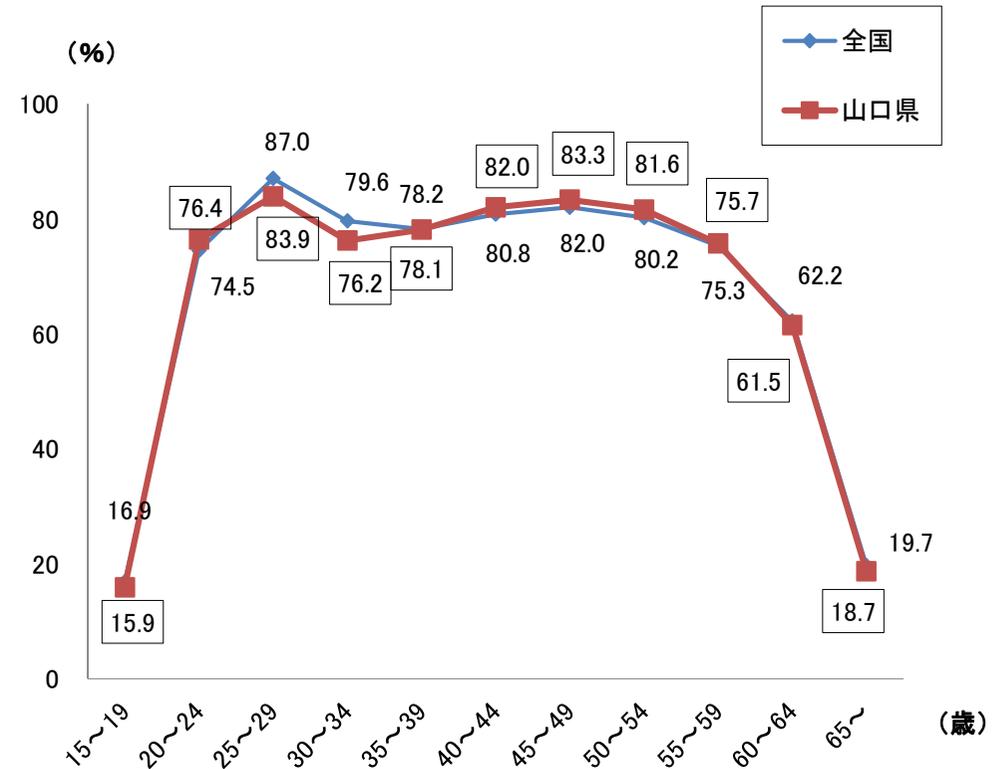
- ◆ 就業者に占める女性の割合は増加している。
- ◆ 年齢別の労働力率では30歳代前半が底となっている(M字カーブ)。

○ 女性の就業者等の推移



総務省国勢調査

○ 女性の年齢階級別労働力率 (令和2年)



総務省国勢調査

家庭における育児の状況

- ◆男性の育児休業率は前回調査から大きく上回っているが、女性(97.8%)とは依然として大きな取得率の差
- ◆山口県における固定的役割分担意識は全体で見ると反対が賛成を上回っており、男性と比べて女性の方が反対の割合が多い。

○ 育児休業取得率

区 分	山口県		全国	
	R4実績	R1実績	R4実績	R1実績
女性	97.8%	98.5%	80.2%	83.0%
男性	31.0%	10.9%	17.13%	7.48%

山口県「令和5年度働き方改革推進実態調査」

○ 固定的役割分担意識 ※「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識

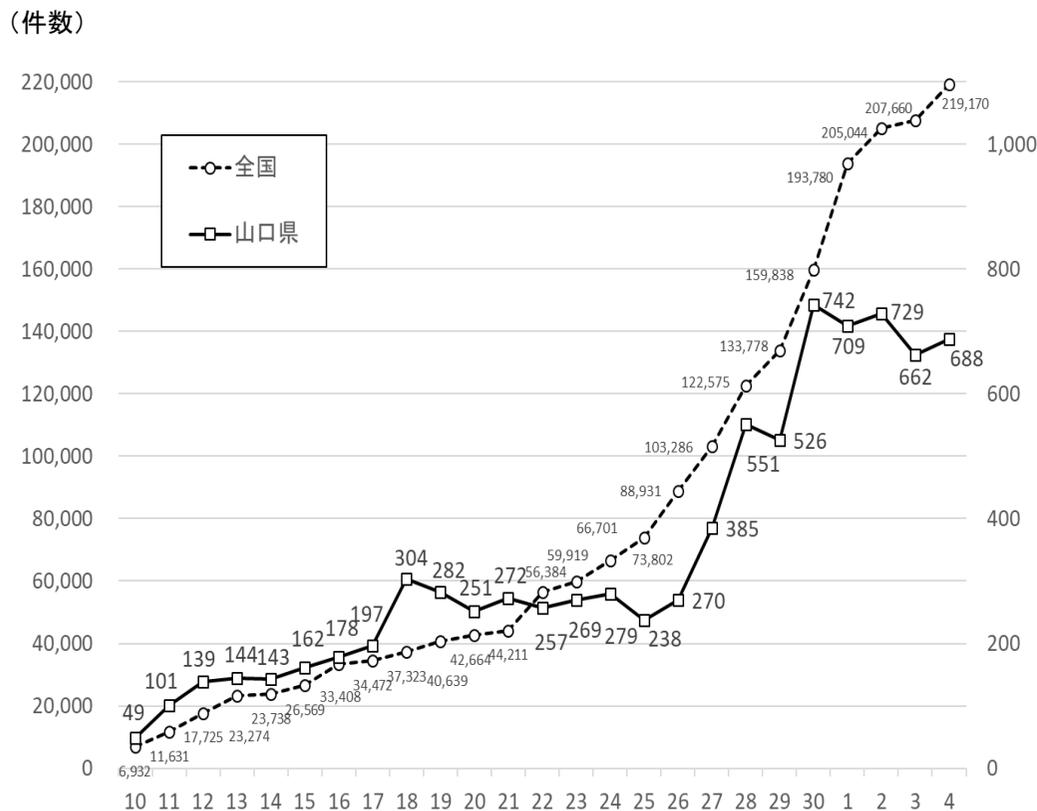
区 分		全 体		男 性		女 性	
		賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
山口県	2019年	35.5	54.4	40.1	50.2	32.2	57.5
	(2009年)	(44.8)	(45.4)	(53.6)	(36.9)	(36.1)	(53.6)
全国(2019年)		35.0	59.8	39.4	55.6	31.1	63.4

山口県「男女共同参画に関する県民意識調査」(2019年)
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2019年)

山口県における子どもを取り巻く環境の変化

- ◆ 令和4年度の児童相談所における児童虐待相談対応件数は、688件で過去4番目の多さ
- ◆ 令和4年度に実施したヤングケアラーの実態把握調査では、回答者の2.3%が家族の世話をしているためにやりたいことができていない状況

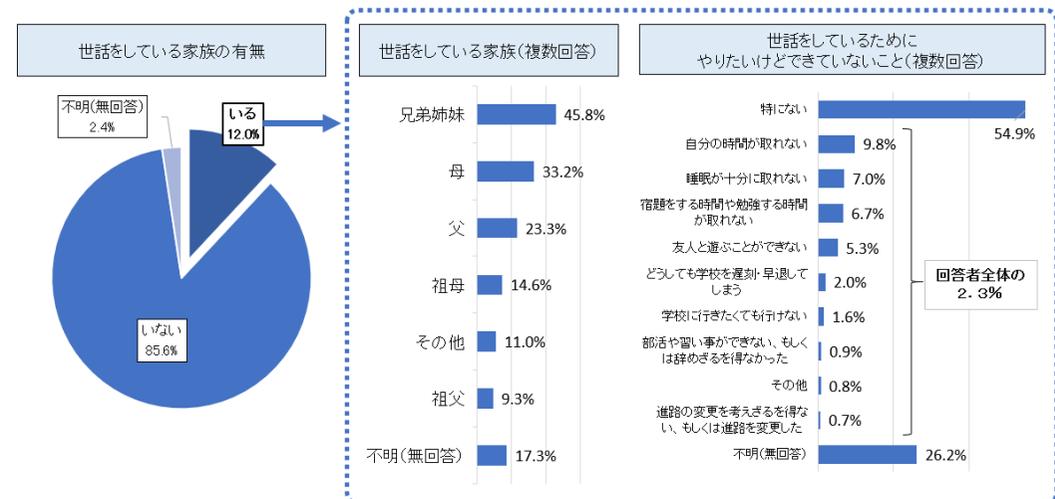
○ 児童虐待相談対応件数の推移



※令和4年度:速報値
 ※平成22年度全国の件数:福島県を除く

○ ヤングケアラー実態把握調査 (令和4年度)

[対象] 小学5年生～高校3年生
 [回答状況] 世話をしているために、やりたいけれどできていないことが「ある」と回答したのは回答者全体の2.3% (1,419人)



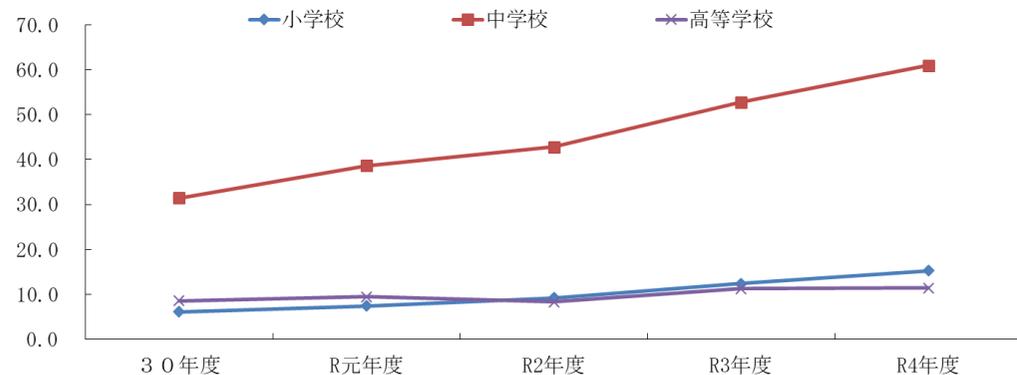
山口県における子どもを取り巻く環境の変化

◆不登校児童生徒数は過去最多

◆いじめの認知件数は前年度より減少、認知率は全国数値を下回っている。

○不登校の状況（令和4年度 山口県：国公立）

<不登校児童生徒出現率の推移（1,000人当たりの不登校児童生徒数）>



不登校児童生徒数

	30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校	413	500	611	807	973
中学校	1,092	1,322	1,455	1,796	2,060
高等学校	287	310	267	348	345

不登校児童生徒出現率

	30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校	6.1	7.4	9.2	12.4	15.2
中学校	31.4	38.6	42.8	52.8	61.0
高等学校	8.5	9.4	8.3	11.2	11.4

※出現率：児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数(人)

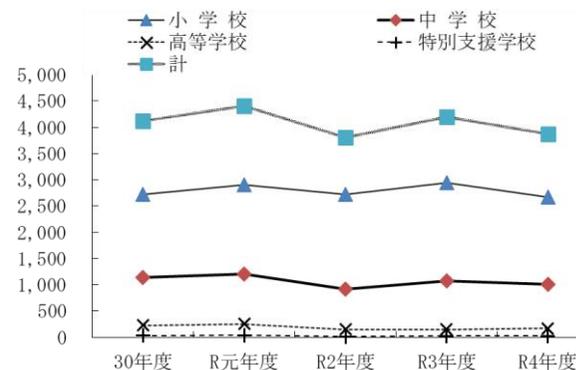
<全国との比較>

区 分	山 口 県		全 国	
	不登校児童生徒数	出現率(人)	不登校児童生徒数	出現率(人)
小学校	973(+166)	15.2(+2.8)	105,112(+23,614)	17.0(+4.0)
中学校	2,060(+264)	61.0(+8.2)	193,936(+30,494)	59.8(+9.8)
高等学校	345 (-3)	11.4(+0.2)	60,575 (+9,590)	20.4(+3.5)

() 内は前年度との比較

○いじめの状況（令和4年度 山口県：国公立）

<認知件数>



区 分	30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校	2,716	2,906	2,720	2,945	2,670
中学校	1,144	1,207	919	1,079	1,008
高等学校	226	252	149	147	166
特別支援学校	30	41	13	26	23
計	4,116	4,406	3,801	4,197	3,867

<全国との比較>

区 分	山 口 県		全 国	
	認知件数	認知率(件)	認知件数	認知率(件)
国公立	3,867(-330)	28.8(-2.2)	681,948(+66,597)	53.3(+5.6)

※認知率：児童生徒1,000人当たりの認知件数(件)